

## 文化・芸術

### 「絹の夢#72」

2012年、インクジェットプリント  
252・0号×189・0号（作家蔵）

石内 都（1947年〜）

「ひろしま」で多くの絹繊維と出会い、生地である織物の街・桐生を思うこととなります。2011年、桐生梅田の織塾に残されたおびただししい質量の銘仙を撮影。やがて被写体は、繭玉、生糸、織機、生糸を運んだ上毛電鉄西桐生駅にまで及びます。

「絹の夢」は、つややかな色や光沢にとどまらず、日本の近代を支えた絹産業の現況をも多角的にとらえました。しかしその8年後のこと。桐生で撮った銘仙のすべてが焼失してしまいます。ときを経て、写真が担ってしまう記録性を強く意識する機会となりました。

本展では、絹をとりまく写真が選ばれています。夢の跡「銘仙」へのオマージュのように、その生の姿が、空間いっぱい放たれています。

（小此木）

企画展「石内都  
STEP THROUGH TIME」から

《名画の扉》

